

# YMCA

K U M A M O T O

# NEWS



December 2010  
vol.463

12

基本聖句 喜ぶ人と共に喜び、  
泣く人と共に泣きなさい  
(ローマの信徒への手紙第12章15節)

熊本YMCAの使命

共に生きる社会 ウエルネス活動  
地球環境の保全 ボランティア活動  
生涯学習の推進 平和な世界

■ホームページ [www.kumamoto-ymca.or.jp](http://www.kumamoto-ymca.or.jp)  
■ブログ [kumamoto-ymca.wablog.com](http://kumamoto-ymca.wablog.com)  
■メールマガジン登録 [www.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi](http://www.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi)



●発行所／(財)熊本YMCA／〒860-8739熊本市新町1-3-8 TEL096-353-6397代  
●編集人／堤 雄二 ●発行人／堤 弘雄 2010年12月1日発行(毎月1日発行)  
1984年8月15日第3種郵便物認可 定価60円(送料60円)

## CONTENTS

- 1・2 女性が創り出す安全な世界
- 2 むさし・上通・中央・東部YMCA祭り
- 2・3 event report  
秋季三水会/みなみYMCA幼稚園・尾ヶ石保育園交流  
ながみねYMCAピースセミナー/自立の店ひまわり10周年  
チャリティ大駅伝大会/こどもえいご生 中学校英語弁論大会  
アガベNo.57「持つことから、在ることへの転換」
- 3 Life 第33回  
箱崎自由学舎 ESPERANZA 小田哲也さん②  
YMCA NETWORK (地域YMCA情報)  
ながみねファミリーYMCA/むさしYMCA/阿蘇YMCA

## わたしと聖句



わたしによる福音書第1章21節  
マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。

持って来てくれる。クリスマスケーキを食べる。クリスマスイブ礼拝に参加する(せひ教会へ)。クリスマスキャロルを歌う。愛する者にクリスマスプレゼントを捧げる。

架の上にご自分の命を捧げて、復活されました。毎年熊本県内の児童養護施設に保護されている850人の子どもたちを覚えてプレゼントを集めています。今年も24回目になり、YMCAの皆様のご協力に感謝しています。一人ひとりへの贈り物を準備して各施設に届けます。今年もサンタを助けてください。皆様の愛情を子どもにお届けします。また教会でお会いしましょう。皆様皆様ともにもいますように。

日本福音ルーテル教会熊本教会  
ボーマン ナタン

# 女性が創り出す安全な世界は 人が人として生きられる世界

世界YMCA同盟と世界YWCAは、毎年11月の第2週目の日曜日を起点とする一週間を合同祈禱週として、一つのテーマのもと共に祈りの時を持っています。今年のテーマは「女性が創り出す安全な世界」で、11月13日(土)に熊本大学YMCA花陵会館でYMCA/YWCA合同祈禱会が開催されました。

世界には暴力や虐待に苦しむ多くの女性や子どもたちがいます。しかし本来、人間は公平に、すべての場において暴力から自由である「安全な世界で生きる権利が与えられているのです。祈禱会では、女性史研究家の葛西よう子さんが語る矢島楯子の生き様を通して、安全な世界を構築するために、私たちにできる取り組みについて考えました。

## 新聞に見る日本女性の社会的地位

私は『長崎女性史研究会』で、長崎に生きた様々な女性の生涯をたどる活動をしています。作家の澤地久枝さんは「庶民の歴史は記録に残さない限り消えてしまう。そして記録がなくなる時、歴史もまた消える」とおっしゃっています。ですから、失われた庶民の女性の生き方を掘り起こし、書き残さなければと思っています。

その一番の手がかりは新聞記事です。長崎は原爆で新聞社が焼けて資料が残っていないため、九州大学や国立国会図書館、県立長崎図書館を訪ね、明治時代以降の新聞に掲載されている

女性関係の記事を読みました。すると、明治時代中頃まで女性の地位は高かったことが分かりました。男女共学、男女同権という言葉も出てきます。男性中心の社会となったのは、明治維新の時、全人口の5%にすぎなかった武士の慣習をもとに法律を作り、日本人の慣習としたからです。明治時代前半の社会では、女性ももっと力を持つており、皆の心はもっと自由だったのです。

記事を読み感心したのが、矢島楯子が率いた『キリスト教婦人矯風会』。同会は、「社会の弊風を改め道徳を修め飲酒喫煙を禁じ以って婦人の品位を開進するを目的」とする団体です。ロンドンの会議に出席するなど、外国ともつながりのある素晴らしい団体だと伝えた記事もあり、当時の日本で、どれほど大きな働きをし、喜んで迎えられていたかが分かります。

## 矢島楯子と婦人矯風会

楯子は1833年、熊本の惣庄屋に誕生。当時、同様の旧家は裕福で力があり、町村の人たちと力を合わせて工夫を凝らし、社会をより豊かにしたリーダー的存在でした。東京から訪れた学者が開いた塾などで、男女ともに学んでいたといえます。楯子の姉である竹崎順子、横井小楠に嫁いだつせ子、徳富一敬に嫁ぎ、徳富蘇峰と蘆花を生んだ久子の3人が著名なのも、このような環境のもとで育ったからでしょう。楯子は26歳で結婚しますが、夫の飲酒時の暴力に耐えか

ねて離婚。40歳の時、兄の看病のため上京を決意し、長崎発の船上で「船は楯の力で動く。私の楯は私が取る」として、自ら楯子と改名しました。東京では、小学校教員を経てキリスト教伝道師ツル一夫人と出会い、請われて築地新栄女学校校長となります。夫人の生き方、考え方に感銘を受けた楯子は、夫人を突き動かしている力はキリスト教にあると確信し、洗礼を受けたのです。

そして、51歳でレビット夫人と出会います。酒が人を狂わせることを知っていた楯子は夫人の演説を聞き、健全な家庭を築くためには「禁酒」「禁煙」だと考えます。そして「誰か一人から始めなくてはならないのです。誰かがやるだろうと皆が思っているのでは事になりません」という夫人の言葉に感動した50名ほどの仲間と東京婦人矯風会を創立し、会長となります。以降、女子教育を続けながら会の活動に携わり、「一夫一婦制の建白書を政府に提出。矯風会は1893年に全国的な組織となり、60歳の楯子は会頭として廃娼運動にも乗り出します。さらに74歳で初めて渡米し、89歳でワシントン軍縮会議に出席するなど国際平和にも尽くしました。

## 矢島楯子が追い求めた安全な世界

楯子は93歳で亡くなるまで、大変な生涯を送りました。しかし、いつも前向きでした。楯子が目指したのはどのような世界だったのでしょうか。安全な世界とは、人が人として生きられる世



葛西よう子さん  
九州大学文学部社会学科卒。務求を長らく平和を求め、現職(女性学)に携わり、長崎大学非常勤講師(女性学講座)、長崎女性史研究会、長崎YWCA副会長。

界であり、人が物ではなく人として生きられる世界だと思っています。人権という言葉や感覚のなかった明治時代に、女性としてその世界を創り出す仕事に生涯をかけて取り組んだのが「女も人である。男も人である」と考える楯子でした。一方、楯子は日露戦争に参戦しています。ここに私は明治時代に生きた人の限界を見ます。しかし、矯風会は、1945年の戦後第一回の全国大会で「世界平和を目指しながら、戦争を阻止出来なかつた怠りと無力を懺悔し」再出発をしています。きちんと反省を行ったという意味でも矯風会は大変素晴らしい仕事をした団体であると思うと同時に、その団体を創り、導いてきた矢島楯子という人の人間としての底力を感じます。

女性が必要な人権を獲得するということは、男性もまた同じ権利を持つということ。女性も男性も、人として生きる権利のある社会が安全な社会です。女性が安全な社会を創り出せば、それが男性にとっても安全な社会となる。人が人として生き続けられる社会となるのです。